

第4回研究会の主な意見

日時：平成21年10月29日（木）15：00～17：30

場所：三田共用会議所 1階 講堂

○有害物質管理に関する議論

- ・ 資料3のp.1に「レアメタル回収における課題、並びに使用済小型家電のリサイクルにかかる環境（有害物質）管理における課題」とあるが、有害物質管理に関する整理はあまり見られないが、検討する必要性があるのではないか。
- ・ 有害物質を管理するというだけでなく、他国から有害物質を日本が受け入れて適正処理するという考え方はできないか。

○調査対象品目に関する議論

- ・ 調査対象とする品目に電気かみそりを増やしてはどうか。電気かみそりは、レアメタルが含まれている可能性があるとともに、電池が埋め込まれており、台数としても多い。
- ・ ゲーム機については、ポータブルでないものも含め、引き続き調査対象とする必要がある。
- ・ 資料3 p.2の調査対象とすることが望ましい品目・部位に「DVDプレーヤー、電磁調理器」などあるが、これらは備え付けの場合もあり、消費者が小型家電と認識していないことも考えられる。再考した方が良いのではないか。
- ・ 上記のような定義とするのであれば「小型家電」という呼称を見直す必要があるかもしれない。
- ・ 日本でも、家電リサイクル法等の法律の対象品目以外については、本事業のターゲットとしつつ、その中で、これからWGにてどのような品目を回収するのかを特定し、レアメタルを回収していくべきではないかと考える。例えばイベントでは、レアメタルを含む小型家電となると、様々な品目が持ち込まれる。それを排除するわけにはいかないため、持ち込まれた品目は回収することとし、その中で、選別手法や回収手法を考えていくという方向が良いのではないか。

○小型家電の回収に関する議論

- ・ 既存の回収システム（モバイルリサイクルネットワークなど）に関する情報をできれば地域別で集めた方がよい。回収が難しくなっている理由が把握できる可能性がある。
- ・ 小型家電の中古販売等の情報に関しては、大手のリユース業者にヒアリングすれば、把握できるかもしれない。また、製造年代のデータベースを保有しており、そちらは使用可能である。
- ・ アンケートでは、回収に応じてくれない人からも意見を聞くことが重要である。

○システムの経済性に関する議論

- ・ コストに関して、製錬全般に関わるコストが分離できないのではないか。

- ・ 小型家電回収のシステムの的なことに言及する際には、単に要素を洗い上げて分析することだけでは不足しており、最終的には総合評価が必要となる。例えば経済的な問題、費用・収益の問題、法制度の問題、技術要素の問題等を、積み上げ、インターフェースをつけ、システムとしてどうするのかを検討すべきである。よって、システム設計する場合には、個々の要素のつながりを念頭におき、検討・整理が必要である。

○自治体の取組事例に関する議論

- ・ 資料4には横並びで、人口や人口密度等が記載されているが、それらの数値の根拠を併せて記載せずに、単純に横並びに整理することには違和感がある。例えばボックス1個のカバ面積と言っても、同地域に白神山地等がある場合は、単純に人口面積当たりの指標で比較することは適切ではないと考えられる。今後、これらの点に留意の上、指標を検討していくべきではないか。

○モデル事業の実施概要に関する議論

- ・ 資料5 p. 4の溶媒抽出—電解採取法は、高濃度の抽出には有効（銅、ニッケル）であるが、レアメタルには不適當ではないか。
- ・ 中間処理（解体）を手作業で行う場合、人件費が高くなり、回収の経済性が悪化する懸念がある。
- ・ 各モデル地域において、収集や中間処理を実施する主体が明確でない。自治体にて実施する部分、民間の活力に期待する部分を明確化すべきではないか。
- ・ レアメタルの抽出方法等に関する技術的な事項については、レアメタルWG等で、どのようなプロセスが適當であるかを検討することもあり、WGでの検討結果については、後日、参考としていただくとし、本日の研究会時点では、それぞれの地域の特性や検討内容を活かして実施するというスタンスでよいのではないか。
- ・ モデル事業の中で、環境管理WGにて検討される暴露シナリオ等を踏まえた情報収集等は計画されているのか。
- ・ 付属品を持って来る人も多いと思うが、付属品の回収についてはどう考えているのか。
- ・ 既存の処理システムへの影響、具体的には、既存のシステムに小型家電が投入されないことによる影響について、コストの面だけでなく、レアメタル回収、有害物質管理等の観点からも検討していただきたい。
- ・ 京都は既存のデータの蓄積があるようなので、これまでの状況との変化を比較してはどうか。
- ・ 技術的な検討を各モデル地域にて検討される予定のようであるが、WGにおける検討結果をモデル事業の途中段階にて示すので、是非、参考にしていただきたい。

以上